



平成22年11月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成22年7月7日

上場取引所 東

上場会社名 川口化学工業株式会社
 コード番号 4361 URL <http://www.kawachem.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長兼経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年7月13日
 配当支払開始予定日

(氏名) 山田 吉隆
 (氏名) 荻野 幹雄

TEL 048-222-5171

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年11月期第2四半期の業績(平成21年12月1日～平成22年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年11月期第2四半期	3,375	32.1	122		110		106	
21年11月期第2四半期	2,554	38.6	218		238		337	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年11月期第2四半期	8.77	
21年11月期第2四半期	27.73	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年11月期第2四半期	6,157	1,335	21.7	109.63
21年11月期	6,307	1,225	19.4	100.56

(参考) 自己資本 22年11月期第2四半期 1,335百万円 21年11月期 1,225百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年11月期		0.00		0.00	0.00
22年11月期		0.00			
22年11月期(予想)				0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年11月期の業績予想(平成21年12月1日～平成22年11月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,800	19.7	240		200		200		16.41

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔注〕 詳細は、4ページ〔定性的情報・財務諸表等〕 4.その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更 無
以外の変更 無

〔注〕 詳細は、4ページ〔定性的情報・財務諸表等〕 4.その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年11月期第2四半期	12,200,000株	21年11月期	12,200,000株
期末自己株式数	22年11月期第2四半期	14,618株	21年11月期	14,618株
期中平均株式数(四半期累計期間)	22年11月期第2四半期	12,185,382株	21年11月期第2四半期	12,185,480株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予測のご利用にあたっての注意事項については、4ページ〔定性的情報・財務諸表等〕「3.業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、中国を中心としたアジア経済の回復、経済対策の効果や在庫調整の進展から、昨年後半から生産活動が持ち直しに転じ、当期に入っても穏やかな回復の動きが継続いたしました。

しかしながら、当社の関係する自動車産業及びタイヤ業界においても同様に回復に向かったものの、その回復状況は未だ低水準で推移しております。また、原材料の石油関連商品の価格は再び上昇に転じ、不安定な原材料価格や円高の継続をはじめ他国企業との競争は厳しさを増しており、当社を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社においては変化の激しい市場の動向に合わせた生産販売活動に注力し、主力のゴム薬品・環境用薬品・機能性化学品の拡販や新製品戦略の展開を行うとともに、原材料・製品在庫の適正化並びに合理化をはじめとするコスト削減を継続いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は33億75百万円(前年同期比32.1%増)、営業利益は1億22百万円(前年同四半期は営業損失2億18百万円)、経常利益は1億10百万円(前年同四半期は経常損失2億38百万円)、四半期純利益は1億6百万円(前年同四半期は四半期純損失3億37百万円)となりました。

(部門別の概況)

〈ゴム薬品〉

ゴム薬品の分野は、経済対策の効果により自動車生産が回復基調となったことから、主要顧客であるタイヤ、自動車用ゴム部品、合成ゴムユーザーにおいて需要が回復し、販売数量を伸ばしました。あわせて、特殊ゴム薬品について新製品をはじめとして拡販を進め関連業界の回復と合わせ売上を伸ばしました。輸出においては円高の環境が継続しているものの、経済対策を実施した中国をはじめとする東南アジアの市況の回復に合わせ拡販に努め、販売数量を増加させました。

この結果、この部門合計の売上高は20億60百万円(前年同期比46.2%増)となりました。

〈樹脂薬品〉

樹脂薬品の分野は、主要需要先である国内外のアクリル酸・アクリル酸エステル・ABS樹脂・MMA等の生産が回復し、自動車産業の復調や海外顧客で需要増もあり、販売量を伸ばしました。

この結果、この部門合計の売上高は4億96百万円(前年同期比49.2%増)となりました。

〈中間体〉

界面活性剤並びに染顔料中間体は、市場の回復や顧客の需要増加に合わせ販売を行い、売上を伸ばしました。医農薬中間体は、医薬中間体で受注が下半期にずれ込んだ品種があったものの需要が拡大した品種もあり前年並みの売上高となり、農薬中間体において顧客の生産量の減少から販売量が減少しましたが、中間体全体の販売は増加しました。

この結果、この部門合計の売上高は3億74百万円(前年同期比9.8%増)となりました。

〈その他〉

環境用薬剤は、製品の統合があったものの拡販に努力し、前年の販売を超える売上高を確保しました。潤滑油向け薬品は関連業界の回復により売上高は増加しましたが、新規用途向け製品の販売は品種により増減があり、売上高は前年同期を下回りました。

この結果、この部門合計の売上高は4億42百万円(前年同期比6.1%減)となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は6億1,570百万円と、前事業年度末に比べて1億5,000百万円減少いたしました。これは主に、たな卸資産が1億9,100百万円増加したことに対し、現金及び預金が3億7,700百万円減少したことなどによるものです。

当第2四半期会計期間末における総負債は4億8,210百万円と、前事業年度末に比べて2億6,000百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が1億9,700百万円増加したことに対し、流動負債その他のうち未払費用が8,700百万円、借入金が3億6,200百万円それぞれ減少したことなどによるものです。

当第2四半期会計期間における純資産は1億3,350百万円と、前事業年度末に比べて1億1,000百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が1億600百万円増加したことなどによります。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益の計上、仕入債務の増加等に対し、売上債権の増加、たな卸資産の増加等により560百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により660百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済等により3億6,600百万円の減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期会計期間末における残高は7億500百万円と、前事業年度末に比べて3億7,700百万円減少いたしました。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年1月18日に公表いたしました平成22年11月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想を修正しております。詳細は、平成22年6月29日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期会計期間末の貸倒実績率等が、前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

② たな卸資産の評価方法

当第2四半期会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地棚卸を一部省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年5月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	705,856	1,083,600
受取手形及び売掛金	2,059,165	1,884,138
商品及び製品	663,737	535,242
仕掛品	214,485	194,741
原材料及び貯蔵品	240,345	197,388
その他	13,609	15,848
貸倒引当金	△2,059	△2,831
流動資産合計	3,895,141	3,908,128
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	1,002,974	1,097,146
その他(純額)	875,681	927,871
有形固定資産合計	1,878,656	2,025,018
無形固定資産		
その他	8,793	7,717
無形固定資産合計	8,793	7,717
投資その他の資産		
その他	375,457	367,388
貸倒引当金	△650	△650
投資その他の資産合計	374,807	366,738
固定資産合計	2,262,258	2,399,473
資産合計	6,157,399	6,307,601
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,216,017	1,018,696
短期借入金	1,470,000	1,770,000
1年内返済予定の長期借入金	124,760	124,760
1年内償還予定の社債	600,000	600,000
未払金	165,492	181,848
未払法人税等	4,737	1,638
未払消費税等	7,412	46,793
賞与引当金	114,426	—
役員賞与引当金	858	—
その他	23,829	153,798
流動負債合計	3,727,533	3,897,536
固定負債		
長期借入金	328,320	390,700
退職給付引当金	642,780	651,020

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年5月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年11月30日)
役員退職慰労引当金	52,981	72,163
その他	69,908	70,847
固定負債合計	1,093,990	1,184,731
負債合計	4,821,523	5,082,267
純資産の部		
株主資本		
資本金	610,000	610,000
資本剰余金	58,437	58,437
利益剰余金	670,361	563,479
自己株式	△6,739	△6,739
株主資本合計	1,332,059	1,225,177
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,816	156
評価・換算差額等合計	3,816	156
純資産合計	1,335,875	1,225,334
負債純資産合計	6,157,399	6,307,601

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年5月31日)
売上高	2,554,903	3,375,113
売上原価	2,339,035	2,820,191
売上総利益	215,868	554,922
販売費及び一般管理費	434,069	432,087
営業利益又は営業損失(△)	△218,200	122,835
営業外収益		
受取利息	389	552
受取配当金	105	214
不動産賃貸料	4,542	3,848
受取保険金	—	5,778
その他	2,472	2,249
営業外収益合計	7,510	12,644
営業外費用		
支払利息	19,308	17,761
社債利息	6,243	4,777
その他	2,416	2,504
営業外費用合計	27,968	25,042
経常利益又は経常損失(△)	△238,658	110,436
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	772
特別利益合計	—	772
特別損失		
たな卸資産評価損	32,014	—
たな卸資産除却損	—	613
投資有価証券評価損	3,872	—
固定資産除却損	159	420
特別損失合計	36,047	1,034
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△274,705	110,173
法人税、住民税及び事業税	620	620
法人税等調整額	62,597	2,671
法人税等合計	63,217	3,291
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△337,923	106,881

【第2四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)
売上高	1,236,828	1,747,913
売上原価	1,121,286	1,460,175
売上総利益	115,541	287,737
販売費及び一般管理費	220,128	219,881
営業利益又は営業損失(△)	△104,586	67,856
営業外収益		
受取利息	197	368
不動産賃貸料	2,904	1,924
受取保険金	—	2,321
その他	709	1,608
営業外収益合計	3,811	6,221
営業外費用		
支払利息	10,919	8,315
社債利息	2,776	2,434
その他	1,093	1,195
営業外費用合計	14,789	11,945
経常利益又は経常損失(△)	△115,564	62,132
特別利益		
投資有価証券評価損戻入益	1,276	—
貸倒引当金戻入額	—	114
特別利益合計	1,276	114
特別損失		
たな卸資産除却損	—	613
固定資産除却損	159	420
特別損失合計	159	1,034
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△114,447	61,211
法人税、住民税及び事業税	310	310
法人税等調整額	131,531	34
法人税等合計	131,841	344
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△246,288	60,866

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	△274,705	110,173
減価償却費	186,101	179,964
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	356	△772
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△68,228	△8,240
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	114,426
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12,000	858
役員退職慰勞引当金の増減額 (△は減少)	△131	△19,181
受取利息及び受取配当金	△495	△767
為替差損益 (△は益)	20	53
支払利息及び社債利息	25,551	22,538
有形固定資産除却損	159	420
投資有価証券評価損益 (△は益)	3,872	—
売上債権の増減額 (△は増加)	965,840	△175,026
たな卸資産の増減額 (△は増加)	438,248	△191,196
仕入債務の増減額 (△は減少)	△822,836	171,424
未払消費税等の増減額 (△は減少)	29,034	△39,380
その他	△77,007	△84,868
小計	393,779	80,426
利息及び配当金の受取額	495	767
利息の支払額	△29,430	△24,137
法人税等の支払額	△1,285	△1,036
営業活動によるキャッシュ・フロー	363,558	56,019
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△109,785	△57,951
無形固定資産の取得による支出	—	△1,820
投資有価証券の取得による支出	△1	△37
従業員に対する貸付けによる支出	△3,000	△1,022
その他	△1,586	△6,021
投資活動によるキャッシュ・フロー	△114,373	△66,853
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	799,560	△300,000
長期借入金の純増減額 (△は減少)	84,580	△62,380
社債の償還による支出	△400,000	—
リース債務の返済による支出	△4,622	△3,982
配当金の支払額	△35,759	△493
財務活動によるキャッシュ・フロー	443,758	△366,855
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20	△53
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	692,923	△377,743
現金及び現金同等物の期首残高	268,258	1,083,600

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年5月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高	961,181	705,856

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 販売実績

部門別売上高明細表

(単位：千円)

	当 期		前 期		増 減
	(平成21年12月～平成22年5月)		(平成20年12月～平成21年5月)		
	金 額	構成比	金 額	構成比	
ゴム薬品	2,060,731	61.1	1,409,258	55.2	651,472
樹脂薬品	496,993	14.7	333,134	13.0	163,858
中間体	374,538	11.1	341,014	13.3	33,523
その他	442,850	13.1	471,495	18.5	△ 28,644
合計	3,375,113	100.0	2,554,903	100.0	820,210
(うち輸出)	510,166	15.1	266,668	10.4	243,497

当社は、原則として見込生産を行っております。